



〔はじめに〕

ルリカケスは国内希少種であり、かつ天然記念物に指定されている。このため飼育展示目的だけの導入は困難で、導入に当たっては、現地でのこの種の保全に役立つ研究を目的としたものに限られる。平成13年度に東京都の予算で、奄美大島の二つの異なる繁殖地（名護市郊外金作原および龍郷町市理原）に巣箱20個を設置した。その利用状況調査を行った。この事業は、これらの成果を踏まえ、設置した巣箱の利用状況調査を行い、将来的には採卵した卵や巣立ち間際のヒナを採取して人工孵化・育雛試験を行い、巣立った幼鳥を動物園へ導入することを目的として、地元関係機関・団体および現在ルリカケスを飼育している3園館（上野動物園、鹿児島市平川動物公園、島津興行仙巖園）が協力して取り組んだ。

事業の実施は、現地の状況に詳しい特定非営利活動法人（NPO法人）奄美野鳥の会に業務を委託した。

〔活動状況〕

ルリカケスは家屋の軒下などへ営巣するほか、自然林においても巣箱を利用することが知られている。2002年4月市理原、同年6月に金作原にそれぞれ巣箱10個設置した。巣箱はこれまでに営巣が確認された形状で、底辺が一边45cm正方形で、高さ60cmの縦長の箱の正面(下部)と裏面(上部)に一边10cm正方形の出入り口を開けたもので、塩ビ管の支柱(直径10cm、高さ2m)に取り付け、ヘビ類やマングースなどの捕食者が巣箱に近づけないように工夫するとともに、営巣状態等の観察を考慮して林道から10m～30mの位置に設置した。

2002年12月から2003年5月までの間、1ヶ月に数回観察を行った。しかし、営巣中のルリカケスは警戒心が強いので、できるだけルリカケスが巣箱の周辺にいないときに巣箱内を双眼鏡で、ビデオカメラを設置して確認した。

・市理原での調査結果

設置した10個の巣箱のうち、9個にルリカケスの営巣が確認された。

2002年12月8日に2個の巣箱に枯葉など1cm程度の厚さで底面に敷き詰められているのを観察したが、その後の経緯からルリカケスによるものである可能性が高くなった。

設置した巣箱のうち1個で営巣の中途放棄が見られ、別の1個では2羽のヒナが孵化したものの、ハシブトガラスによるものと思われる捕食が観察された。したがって市理原では、営巣した巣箱9個のうち、2個の巣箱で繁殖が失敗したが、残り7個で繁殖に

成功した。また、1個の巣箱においては、巣立ち後再度繁殖が行われ、2回とも成功した。

・金作原での調査結果

設置した10個のうち1個に他の野鳥によるものと思われる若干の巣材が見られたが、10個全てで営巣は観察されなかった。

〔考察〕

ルリカケスは、かなり早い時期から営巣することが分かっているが、今回の観察結果からも、早いものでは12月下旬に巣材を運び始め、2月初旬に抱卵、3月初旬に孵化し、育雛をはじめ、3月下旬から巣立ちを迎えることが確認された。しかし、遅い例では4月中旬の巣立ちが見られた。

また、同じ巣箱で2度の繁殖が見られた事例では、それぞれ巣立ちの日を確認することができなかったが、2003年2月15日に1回目の抱卵、3月25日にヒナ2羽を観察、5月19日に2回目のヒナ2羽を観察した。

このことからルリカケスの繁殖期間は個体差もあり、約半年間におよび、ヒナ数も3羽～4羽(巣箱の中が薄暗く確認が困難であった)が多く、2羽および1羽の巣箱がそれぞれ1例あった。

今回は、繁殖に影響をできるだけ少なくするため、最小限度の観察にとどめたが、今後は巣箱に自動カメラを設置するなど、影響を与えない方法で確認記録に努め、できるだけ詳細なデータが得られるように取り組みたい。

〔助成金の使途〕

東京都恩賜上野動物園が奄美野鳥の会に観察を依頼し、委託金として支出した。

[閉じる]